

令和5年度小諸高校学校目標（学校目標に対しての職員自己評価）

【 1 】 教育方針と重点目標

教育方針	民主的な社会の進展に貢献できる健全な人間育成を目指す。
長期的目標	上記実現のため、生徒に「つけるべき力」は次の通りとする。 1 自分から目的を設定し、積極的に行動していく「主体性」 2 社会の一員としての自覚と他者の立場を尊重し、よりよい人間関係を形成する「社会力」
重点目標	1 生徒指導の充実 2 学習活動の充実 3 特別活動の充実 4 開かれた学校づくり ※様々な場面において、いじめ・体罰のない、安心・安全な学校作りをさらに推進していく。

【 2 】 今年度の重点活動

重点目標	具体的目標	実施内容	年間総括
1 生徒指導の充実	① 安心して学べる学校づくり	○いじめ暴力を許さない人権感覚の育成 ○相談室体制の充実 ○きずなネットの活用	【1学年】教育相談係の先生が中心となり、クラス担任の要望、カウンセリング等の連携を図りながら対応できた。 【2学年】クラス担任、教育相談係、養護教諭と連携しながら、該当生徒に対してできる限りのサポートをすることができた。 【3学年】学年(担任)・教育相談係・養護教諭らと連携し、問題を抱えた生徒を見逃さず、支援することができた。 【生徒指導係】全校生徒にアンケートを実施し、いじめ等の把握に努めた。特に大きな事案は無かった。全校SNS安全講習会を5月上田警察署のスクールサポーター井出様に来ていただき全校受講の講演を行った。授業の時間帯に先生方が空き教室を中心に見回りを実施している。アルバイトを行っている生徒に雇用状況のアンケートをしたが事業者とのトラブルや悩みは無かった。
	② 交通ルール・マナーの向上	○交通安全教育の強化 ○交通安全街頭指導の実施 ○交通安全全校集会の実施	【1学年】自転車通学者に対して、ヘルメット着用義務の周知と携帯率を調査し、着用について指導することができた。自転車利用について、保険の確認をし、安全走行を促すことができた。 【生徒指導係】4月の全校交通安全教室や5月10月2回の通学路街頭指導を行った。バイク通学者に校内研修とバイク車体点検、ヘルメット点検を行った。(ヘルメットが努力義務になった事は95%が知っているが、自転車に乗っている生徒の着用率は30%にとどまっている)
	③ 集団規律の確立・維持	○係と学年・担任の連絡を密にして共通認識の下に指導等にあたる ○SNS使用法の注意喚起を随時行う ○アルバイトに関する生徒・保護者・職員の共通理解を図る ○小諸高校生としてふさわしい身だしなみの確立生徒会との連携も図り、小諸新校へと繋げていく ○小諸新校の校則・校風を模索していく	【1学年】生徒指導上、大きな問題はなかった。身なりにおいては、個々に指導が必要ではあったが、素直に対応していた。部活やクラスの仲間との人間関係から悩む生徒は複数人いたが、その事案の中で、対個人への誹謗・中傷につながるような問題行動に繋がることはなかった。集団生活の中で、うまくいかないことを自分の問題として深く悩む中で、なかなか糸口を見いだせずにいる場面も見受けられる。 【2学年】目立った生徒指導上の問題はなかった。ただし、身だしなみ検査では毎回決まった生徒が改善するように指導することがあった。 生徒会行事や修学旅行等を通じて、集団規律の確立を図ることができた。 【3学年】概ねルールを守ることができた。 【生徒指導係】始業式や定期考査を利用し身だしなみに関しての指導を行った。新校向けの生徒指導規則を作成し、相手校に送り返答待ちになっている。新校の標準服の業者が決まり、生徒会が中心となりデザインのアンケートを実施した。
2 学習活動の充実	① 学力の定着	○家庭学習の習慣化のために学習時間の調査や週末課題など実施 ○外部模試の事前事後指導や、各種検定の活用	【1学年】Classiの学習記録を有効に使うことで日々の学習習慣はもちろんのこと、定期考査に向けた学習のサポートを計った。学習時間を可視化することにより自分の不足分が何かを客観的に分析することができ、次に繋げることができた。学習時間が全体的に増えた。このようなことが学年全体でできると学習習慣化へ繋げることができないことが課題としてある。 【2学年】1年次に引き続き考査計画表を配布し、計画を立てさせ、それに基づいて学習させる取り組みを行った。1年次と比べ、計画的に学習へ取り組んだり、学習時間が増えた生徒が多く見られた。その一方でそうでない生徒もおり、二極化が昨年度より顕著であった。また、課題として定期考査時期以外での普段の学習習慣の確立につながっていない。 【3学年】教科により、週末課題を出し、基礎学力向上に取り組んでいただいた。外部模試の事後指導の時間を取ることは難しかった。 【進路指導係】学力定着の検証にあたっては「学びの基礎診断」の活用を学年主導でお願いした。模擬試験の事後指導が十分できるように各教科と連携を進めたい。

② 進路指導の 充実	○小諸ふれあい講座、職場体験などへの積極的参加の促進 ○基礎学力の一層の充実 ○現在の入試状況、社会情勢に関して、生徒・保護者に最新情報をHPなどを利用して提供	【2学年】探究の授業や進路ガイダンス、模試を通じて自らの進路について本格的に考える生徒が増えた。 長期休業を通じて多くの生徒がオープンキャンパスへ参加した。 【3学年】担任や進路係による個別面談などを通じ、職業や進路決定につながれた。多くの先生方による面接指導や小論文指導、外部模試や補習、特編授業など、多方面からの支援ができた。 【進路指導係】キャリア教育を探究活動を通して進められている。学力定着のために、学年・教科をこえて学校全体で指導する必要は引き続きある。入試情報などの情報発信は定期的な通信で提供。奨学金情報も丁寧に発信した。
③ 学習指導の 研究と実践	○ICTを活用した授業研修など校内研修会の実施 ○研究授業の実施 ○校内公開授業週間を設定し、授業見学による授業形態の研究	【1学年】各教科の授業や探究活動において、電子黒板や電子ノート・電子アプリを活用することで、各自で購入していただいたタブレット端末を最大限活用することができた。今後もこのような活動は継続していけると良い。
3 特別活動の 充実	① 生徒会活動の 充実 ○生徒会活動を通じた人間形成、集団づくり ○生徒が主体的に活動できる場所の設定 ○コロナ禍の中で、これまでの活動の見直しと発展的継承	【2学年】生徒会活動を通じて多くの生徒が積極的に参加する姿が見られた。また、それらの経験を通じて生徒同士の関係性を深めることができた。 【3学年】最上級生として生徒会活動の中心となり、主体的に参加しクラスや友人との団結を強める姿に、成長を感じられた。 【生徒会係】同会場、全校一斉参集の形で様々な行事を展開することができた。引き続き感染症、熱中症への対策も行い、生徒の健康に留意しながら行事を遂行できた。春の体育行事、夏の野岸祭の実施など、生徒主体性を育む取り組みが多くできた。
② クラブ活動の 充実	○クラブ活動を通じた人間形成、集団づくり ○目標達成に向けての努力過程の重視	【2学年】クラブに加入している生徒は日々の活動に励み、目標に向かって努力している姿が見られた。 【生徒会係】コロナ5類移行後、活動の範囲が広くなり、生徒が切磋琢磨しながら努力する姿を多く見ることができた。クラブ未所属の割合が依然として高いが、小諸商業高校との合同練習や、大会参加など、統合に向けた活動も活発になってきている。
③ HR活動の 充実	○HR活動を通じた人間形成、集団づくり ○LHR活動での自主性、探究心を活かす活動 ○生徒が主体となった学年行事企画運営	【1学年】外部の方の話を聞く機会を多くつくることができた。 【2学年】HR活動や様々な行事を通じて友人や集団づくりができた。 【生徒会係】生徒会行事（文化祭・クラスマッチ）やそれに向けたHR活動昨年度よりも充実し、友人や集団づくりにも繋げることができた。各種講演会により自己啓発や人間形成に役立った。
4 開かれた学校 づくり	① 開かれた学校づくり ○PTA活動の充実 ○学校評議員会の充実 ○生徒・保護者アンケートの実施	【1学年】環境整備事業も多くの方の出席で学校施設を整えることができた。 【2学年】保護者アンケートの回答率の低さが課題。きずなネットの活用と共に紙を用いてのアンケートを実施しても良いのではないかと。 【3学年】PTA環境整備作業に多くの参加者があり、3年ぶりに職員・保護者・生徒が協働して、環境整備ができて良かった。 【PTA係】コロナ禍のなか、しばらく行われなかった野岸祭への協力や環境整備事業などを、多くの保護者の皆様のご協力のもと実施することができた。 【教務係】学校評議員会を定期的開催し、小諸高校の情報発信と意見集約の充実を図ることができた。年末に生徒・保護者に学校評価アンケートを実施して昨年度よりも高い回答率にて調査結果をまとめることができた。
② 小諸高校からの 情報発信	○ホームページの充実 ○学年・学級通信の充実 ○進路通信、「小諸高校ニュース」の充実 ○きずなネットの活用	【教務係】定期的に「小諸高校ニュース」や入試情報等、例年並みにHPを更新し、小諸高校の情報発信をすることができた。緊急時や平常時の生徒・保護者への連絡ツールとしてきずなネットを活用、さらに今年度から日々の生徒出欠の保護者からの連絡ツールとして設定した。
③ 外部との連携	○市内各校・地域諸団体と連携を推進 ○外部向け公開授業の実施	【教務係】新校再編に向けて、小諸商業高校と各部署に割り当てられたワーキンググループを実施し、NSD、懇話会等で地域諸団体との連携を推進することができた。公開授業、体験入学等を実施し、地域や中学生、保護者に向けて、開かれた学校をアピールできた。